



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 立志舎横浜校増築工事	階数	地上9F、地下1F
建設地	横浜市神奈川区台町9番3、4、5、12	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、第7種高度地区	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,840時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年4月 予定	評価の実施日	2022年6月16日
敷地面積	560 m ²	作成者	㈱富井建築設計研究所 小松 幸雄
建築面積	406 m ²	確認日	2022年6月16日
延床面積	2,512 m ²	確認者	㈱富井建築設計研究所 小松 幸雄

外観パース等

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.3

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合 特になし	その他 特になし	
Q1 室内環境 開口部の遮音性能はT-2仕様を採用している。 内装仕上材は、ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。	Q2 サービス性能 維持管理や、仕上材の耐用年数に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 夜間照明の設置を行い、防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー BPI _m =0.69	LR2 資源・マテリアル 壁・天井の大部分でLGS下地を使用することで、躯体と仕上げ材を容易に分別可能とし、また内装材と設備が錯綜しないよう配慮している。	LR3 敷地外環境 「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の一部を満たしており、また広告物照明を行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称) 立志舎横浜校増築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 %削減



一次エネルギー消費量基準

適合

外皮基準

対象外

受付日

2022年6月17日

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

[BPI][BPI_m] = 0.69

[BEI][BEI_m] = 0.95

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

2

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

内装仕上材は、ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

空調・給排水配管の更新必要間隔について、主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

1

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.7

(仮称) 立志舎横浜校増築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
				Q 建築物の環境品質					-	
Q1 室内環境					0.40		-		2.8	
1 音環境				3.2	0.15	-	-		3.2	
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	-		-	
1.2 遮音				3.6	0.40	-	-		-	
1 開口部遮音性能				5.0	0.30	5.0	-		-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.30	3.0	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-		-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		-	
2 温熱環境				2.0	0.35	-	-		2.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		-	
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.60	3.0	-		-	
2 外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.40	3.0	-		-	
3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	-	-	-		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-		-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	-		-	
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-		3.0	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-		-	
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.60	3.0	-		-	
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	1.0	-		-	
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	-		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		-	
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	3.0	-		-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		-	
4 空気質環境				3.8	0.25	-	-		3.8	
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		-	
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	1.00	5.0	-		-	
4.2 換気				2.3	0.30	-	-		-	
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33	3.0	-		-	
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33	3.0	-		-	
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	1.0	0.33	3.0	-		-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		-	
1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	1.00	-	-		-	
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-		-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		2.9	
1 機能性				2.7	0.40	-	-		2.7	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		-	
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	-	-		-	
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	3.0	-		-	
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-		-	
1.2 心理性・快適性				2.0	0.30	-	-		-	
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	1.0	-		-	
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	-	-		-	
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.50	-	-		-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		-	
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-		-	
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-		-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-		3.0	
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-		-	
1 耐震性		防災	⑮耐震・免震	3.0	0.80	-	-		-	
2 免震・制振性能		防災	⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		-	
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-		-	
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		-	
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-		-	
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	2.0	0.20	-	-		-	
3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-		-	
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-		-	
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-		-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	-	-		3.0	
3.1 空間のゆとり				3.0	0.30	-	-		-	
1 階高のゆとり				3.0	0.60	3.0	-		-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	-		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	-		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-		-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-		-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-		-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-		-	

CASBEE[®] 横浜 | 評価結果 | 4-030



CASBEE横浜2017年版v.1.7
(仮称)立志舎横浜校増築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	1.3	
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり		⑩生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり		⑨まちなみ・景観への配慮	1.0	0.40	-	-	-	1.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり		⑳地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ		⑭敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	2.8	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能		①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能		②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	3.0	
3 設備システムの効率化	省エネルギー性能		③設備システムの効率化	2.2	0.50	-	-	-	2.2	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネルギー性能		④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能		④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネルギー性能		④効率的運用	3.0	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能		④効率的運用	3.0	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	2.8	
1 水資源保護				2.2	0.20	-	-	-	2.2	
1.1 節水				1.0	0.40	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60	-	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.11	-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.22	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.22	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	2.7	
1 地球温暖化への配慮				3.1	0.33	-	-	-	3.1	
2 地域環境への配慮				1.9	0.33	-	-	-	1.9	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.50	-	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	-	-	-	
2 振動				-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				4.0	0.70	-	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	-	
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ		⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-	-	-	
<住宅用途>										
健康と安心										
1 化学汚染物質の対策	健康・安心		⑥健康対策	-	-	-	-	-	-	
2 適切な換気計画	健康・安心		⑥健康対策	-	-	-	-	-	-	
3 結露・カビ対策	健康・安心		⑥健康対策	-	-	-	-	-	-	
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心		⑦防犯対策	-	-	-	-	-	-	